

正見（正しく物事を見る）

私たちは、様々なものや事柄にとらわれて、物事を正しく見ると言うことが出来なくなっていないですか。

私が小学校に入学する頃、祖母は還暦あたりでした。そして、その祖母は本当に年寄りに見えたものです。そして今、その頃の祖母の年をとっくに追い越している自分を見たとき、自分のことをそれほど年寄りと思っていまません。

もちろん孫もおり、行政的には年齢一つとってみても、もう年寄りなのでしょうが、まだまだ(自分では)若いとってしまうのです。だって、裏山を飼い犬と散歩していても、若いときと比べれば息が切れるものの十分歩ける。

でも、これが正しく物事が見えていない、ということなのでしょうね。若いときと比べれば、とっている時点で、もう若くないと言っていることですし、息が切れるのも老いた証拠なのだと思います。でも、それを認めたくないために、まだまだ若いと思い込んでいるのでしょうか。

年齢を重ねるということは、本来悪いことじゃないと思うのです。若いときには見ることが出来なかったことが、見えてくることもありますし、若いときは気づけなかったに気づくことあるでしょうから。自分が歩んできた道のりをしっかりと見つめてみれば、今後の

道のりも見えてくるのではないのでしょうか。